

IV 研究のまとめ

1 研究の成果

- (1) 道徳資料の開発にあたっては、「自己との対話を豊かにできる」という資料開発のねらいに沿った13点の資料を開発することができた。
- (2) 道徳資料の開発を進める上では、児童生徒の実態を十分に踏まえるとともに、「自己との対話を豊かにする資料」などの的を絞った開発方法が有効であった。その結果内容にも深まりを持たせることができた。
- (3) 「自己との対話を豊かにさせる道徳資料」の要件として「多様な価値観が引き出され深く考えさせる資料」、「児童生徒の興味、発達に応じた資料」、「感動的な資料」などが有効であるということもわかった。
- (4) 道徳資料の活用の在り方については、資料分析表や道徳指導案の作成をとおして検討を進めた。さらに、研究協力員それぞれの学校で授業研究に取り組み、その結果について分析・考察をした。

特に、児童生徒一人一人に「自己との対話を豊かにさせること」が、できたかどうかについては、本研究の根幹にもかかわることなので、その方法については研究を深めた。

児童生徒一人一人のねらいとする道徳的価値に対する意識の変容割合については、原則として授業前後の感想内容の比較で、変容要因については授業のどこでそれを強く意識したかを選択させることで究明できると考えた。

その結果、自己との対話を豊かにさせ高い価値把握になる要因として、道徳資料の内容友達の意見、教師の問いかけ、自分の考えを書くこと等が大きくかかわっているととらえることができた。
- (5) 児童生徒の道徳的価値に対する意識が、授業のどこで、何によって変容しているか、その要因を把握できる感想内容を比較・分析するこの方法は、これから道徳授業づくりを進めていく上でも有効であることが分かった。

2 今後の課題

- (1) 道徳資料の開発にあたっては、より高い価値の把握となる「自己との対話をさらに豊かにさせるような資料」を作成すること。
- (2) 自己との対話が豊かにできたかどうかの検証方法については、より客観的に迫れる方法を究明すること。